

学校等再編だより

～子どもたちのより良い教育環境を目指して～

第16号 令和6年5月1日 西伊豆町教育委員会 事務局

賀茂小学校が新たなスタートを切りました

令和6年4月8日に田子小学校と賀茂小学校の統合式が行われ、令和6年度の賀茂小学校がスタートしました。統合式では、まず2校が統合して新たな賀茂小学校が誕生することについて鈴木教育長が宣言し、式辞が述べられました。続いて星野町長と賀茂小学校鈴木校長から来賓や保護者、地域の皆さんに向けたお願いと、子供たちへ熱いメッセージが贈られました。

その後、児童を代表して安達楽さんと長島光里さんの2人が「誓いの言葉」を発表しました。2人が新たな出会いと新たな活動を楽しみにしていることや6年生としての決意の発表に、会場の方々から温かい拍手が贈られました。

賀茂小学校の児童数は昨年度34名から今年度66名となりました。2人の言葉にもあるように、統合したことで楽しいことや心配なことが増えるかもしれません。しかし、子供たちにとって素敵な学校になることを心より願っています。



安達 楽さんの「誓いの言葉」より（一部抜粋）

ぼくは、新しい友達ができ以前よりも楽しくて、にぎやかになるだろうという希望とともに、生活に慣れるまでに時間がかかるだろうという不安もあります。初めてのバス通学でも、乗り遅れないか、忘れ物はないかと、何度も確認して登校しました。

最初からすべてを上手くやろうと無理をするのではなく、まずは、新しい仲間や賀茂小学校のよさを知ること、徐々に新しい学校に慣れていきたいと思います。ぼくは最高学年として、誰もが楽しめるような学校をつくりたいです。



長島光里さんの「誓いの言葉」より（一部抜粋）

まず、楽しみなことは、縦割り遊びの人数が増えることです。今までは、自分たちの班だけで遊ぶと、どうしても人数が足りないことがありました。人数が増えることで自分たちの班だけで遊べます。また、今までできなかった遊びができたとうれしいです。もう1つは、授業で意見が増えるだろうということです。だから、みんなで話し合うのが楽しみです。算数では、みんなでいろいろなやり方を出し合って、どれが一番簡単かとか覚えやすいかなど話し合うことができれば楽しい授業になるだろうなと思います。

【裏面に続く】

惜しまれながら田子小学校が閉校しました

令和6年3月19日、田子小学校卒業式終了後に田子小学校の閉校式が行われました。会場には教職員や児童の他に、来賓と参加を希望された保護者や地域の方々が集まり、総勢150名ほどの皆さんが田子小学校に別れを告げました。

閉校式では、鈴木教育長が式辞を述べた後、星野町長は挨拶の中で自分自身が田子小学校に通っていたころの思い出と田子小学校は自分たちにとって誇れる学校であったことを話しました。続いて山本校長（令和5年度田子小校長）が校章に込められた願いを引用し、賀茂小へ通うことになった子供たちに、勇気と意志と深い知恵を持った人に成長してくれること願うとともに、これまで学校を支えてくれた地域の皆さんに感謝の意を伝えていました。

さらに式の中で、保護者を代表して田子歯科診療所の山本治文さんと、地域住民を代表してカネサ鯉節商店の芹沢安久さんの2人に田子小学校の思い出を語っていただきました。山本さんは体育館の中にある木彫の「校章の由来」の中で「勇気と」の3文字を自分が彫ったことや大雨の日に裏山が崩れて木造の講堂が半壊して非常に驚いたことを話してくれました。芹沢さんは、入学当時上級生が配膳してくれた給食が非常に楽しみだったことや2010年から西伊豆しおかつお研究会を通して給食にしおかつうどんを提供し、子供たちと一緒に食べたことについて話していただきました。

山本校長から鈴木教育長へ校旗が返納された後、仁科認定こども園の土屋紗希さんのピアノ伴奏に合わせて、会場に集まってくれた皆さん全員で校歌を斉唱しました。田子小学校に対する思いを深めながら静かに歌われる人、閉校の寂しさを吹き飛ばすように大きな声で歌われる人など、様々な思いが込められた歌声が体育館全体に響きました。

また、地域にちなんだものを描いたり、田子の光景を残したりすることで、子供たちの記憶に残してもらい、田子を誇りにしてほしいとの願いから、下のような作品が贈られました。いろいろな人がいろいろな形で田子小学校を支え、応援していただいたことを改めて知ることができました。



田子小学校の子供たちに田子の誇りと励ましの気持ちを伝える目的で丁寧に描かれた作品